

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600143		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム八千代高津		
所在地	千葉県八千代市高津850-16		
自己評価作成日	令和2年11月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和2年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に安心でき、とにかく楽しく、笑顔で提供できる。という八千代高津の理念のもと職員だけではなく入居者様も楽しく暮らせるよう行っています。また入居者様一人ひとりに合った支援を常に話し合うことを目標に入居者様のできる能力を活かした役割を持って頂けるよう支援しています。また、スタッフも毎日の朝礼時と夕礼時にハイタッチを行い意識の統一と介護の知識や介護の質高めれるように研修や意見の言える風通しの良いホーム作りをみんなで作っています。また、ユニット関係なく入居者様の交流、ご家族様の交流を大切にスタッフ間でも自ユニットだけではなく情報を共有し対応できるように努めております。スタッフも入居者様も笑いあったり、うれし泣きできる家族のような関係性を作っています。外部からのボランティア様や、居宅の方々も話す機会が増え、地域での活動に力を入れています。何についても「気づき」を大事に今後も継続して雰囲気の良いもっと楽しい愛の家グループホーム八千代高津を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフ自身が楽しくないことを利用者にも求めても無理であると考え、自ら楽しくなることを一緒になって楽しめるレクリエーションを増やしている。11月には内部だけの文化祭を開き、歌の好きな人は皆の前で歌を披露し、工作の好きな人は自分で作ったものを展示して、ホールで皆が楽しい一時を過ごした。今年度はコロナの影響により、従来行っていたものができず、大きな制約を受けている。家族の面会もままならぬ中、Zoomを使って家族面談が行われた。ホームの利用者と遠いフランスにいる娘さんが画面を通して話をされたことは、今までにない画期的なものであり、家族も利用者からも大いに喜ばれる場面づくりともなった。コロナ禍で制約条件の多い中、上手に工夫されたものの一つであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の方が、今年度から変更になり、朝礼、夕礼時に周知、理解を行ってきた。又、今年度のホームの目標も作り、全員で行っている。	本年度は「皆が楽しかったといえるホーム作り」を目標にやってきた。スタッフ間の風通しを良くして、質の向上を目指すことである。そのために、“発言をする”“意見を否定しない”のルール化と朝夕礼時のグータッチを習慣化した。その結果、会議での個々の発言機会が増えると共にホーム全体のモチベーションも高まった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響でボランティア様や地域の方々の交流ができなくなったが、電話や、演奏会の動画など作って下さり対面ではないが助けられている。	現在、地域ボランティアの受入れは中止であるが、近くの音楽の先生などがリクエストに応じて動画やVTRなどを製作して送ってくれる。町内会においては高齢者向け体操や認知症予防などでお手伝いをしている。散歩中での近所の人々が挨拶してくれるようになり、幼稚園バスが来るとこちらからも声をかける。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症とは何かをスタッフ一同で学び、研修や地域の人々に発信できるように行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、新型コロナウイルスで行えていないが、ホームの状況説明及び、活動報告やスタッフ、入居者様の悩みも運営推進会議を通して、ご意見をお聞きする機会を持つようにしている。	例年は家族なども参加しているが、コロナ感染予防から3月以降は内部スタッフのみでの開催とし、2か月毎に実施した。主な内容はホーム状況や事故・入院、行事・予定、意見交換などである。議事録は地域相談員と介護相談員に配布し、ご家族には毎月のお便りと一緒に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携を取る様に心掛けています。今後も協力して関係性を強められるよう行っていきます。	届出などでの訪問時には行政の動向も把握するようにしている。またコロナ禍においては、介護手袋などの物品不足への対策要請も行っている。今年度はZOOM利用での参加であったが、八千代グループホーム部会では市役所もメンバーとして状況を把握している。包括支援センターとは空室情報などでよく連絡をし合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	メディカル・ケア・サービス株式会社の取り組みとして、不適切なケアチェックを2か月に1度各スタッフに実施しその後の対応など全員で周知するようにしている。	不適切なケアチェックシートと身体拘束廃止委員会及び研修会は3か月毎に実施している。内容については会議で取り上げ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日常ではスタッフ目線での対応をするケースもあるため、言葉がけなどで口調が強くないように意識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束の委員会を作り、話し合ったことをユニット会議または、ホーム会議にて周知できるようにしている。また研修や会議でも意見が出やすい風通しの良い環境作りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して理解できるよう努めている。都度不明点は調べ、共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム管理者がご入居契約等を行っており、その際に不安や疑問点を聞き納得して頂けるよう心がけています。また、その都度でもご家族様にもご理解頂ける様に心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、新型コロナウイルスで行えなかったがメディカル・ケア・サービス株式会社の取り組みとして、年に1度ご家族様アンケートを実施しその後結果をもとに改善できるよう計画している。	本年度は、面会制限や運営推進会議への参加見送りで家族と接する機会が減っている。しかし、利用者アンケートの「職員は家族の困りごとや求めていることの話聞いてくれるか」、「本人の要望をわかっているか」の両項目では、非常に高い評価ポイントを得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度は、新型コロナウイルスで行えなかったがメディカル・ケア・サービス株式会社の取り組みとして、年に1度スタッフアンケートを実施している。また、アンケートだけではなく、その都度話を聞けるようにしている。また、スタッフでの目標、ご家族様への目標を設定している。	法人からは3か月に一度の職員面談が基本となっているが、当ホームでは2週間毎にホーム長はスタッフ全員と面談しており、この1年間における離職者はゼロであった。最近ではスタッフの方から、「話を聞いてください」とやってくる。そのためホーム全体のモチベーションが高くなり、運営面で好影響が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記同様にスタッフアンケートを実施しています。アンケートもとにメディカル・ケア・サービス株式会社側は各従業員が向上心を持って働ける様取り組みを行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各役職に合わせ社内研修を行っております。また、資格取得制度等もあり働きながら資格を取得する事もできるよう社外研修の参加も促し参加できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八千代市グループホーム部会に参加し、ZOOMを使うなど市内のグループホームとの交流を行っている。また、事例検討会等も行い、困難事例やホーム側の悩みも聞き八千代市全体として動けるよう関係を作っています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に理解できるよう全員で協力を心掛けています。困っている事等、見抜けるように関係性を作ることを重要視している。常に共有することを第一にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に電話や話す機会を増やし、ご家族様が安心してサービスを利用できる様にご要望等あれば、お話しし関係性も強めれるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にケアマネージャーと共にご本人または、ご家族の所へ訪問し思いを伺い、その人に合ったサービスを提供できるように努めています。また、理解もしていただくためにしっかりと相談をし関係性を作っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に合った介護を常に工夫し、スタッフも年齢関係なく風通しの良いように協力し合い関係性が作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月にお便り(近状報告)をご郵送したり、電話や面会時にもスタッフ全員で、ご報告等できるように心がけています。スタッフ全員がご家族様と話せるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスで面会等できなかったが昔からの知人やご家族様など途切れない様にご連絡や面会をしていただけたよう努めています。また、ご入居者様のキーパーソンだけではなく(お子様・お孫様)の面会も多くなってきたように感じます。	馴染みの人や場所の情報を家族から聞き出しメモに残している、追加が出れば書き足している。家族にはZOOMの利用方法を指導して、画面での面会を推進した。これにより友人やフランスに住む家族とのZOOM面会も実現でき、コロナ禍での関係を途切れることなく支援することが出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「なぜ」「どうして」を大切にスタッフが常に支えあえる関係性を作れるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に関して、積極的にご連絡する事はあまりありませんが、これまで通りお話しや状況を聞き他施設など訪問し関係を途切れないようにしています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や本人の行動をみて、一人ひとり何を求めているか理解できるように様心がけています。スタッフ全員で「気づき」をまず一番に行っています。	「今日は寒い」と発した言葉から、職員が利用者に毛布を1枚出してあげると、「ありがとう」という言葉が返ってきた。ちょっとした会話からの「気づき」に常に注意を払い、このような出来事を職員間で話し合っ、利用者のニーズに応えるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様・ご家族様との会話や生活歴を調べその人に合ったサービスを常に探し反映できるように心がけています。電話や、面会時に必ず話す機会を作っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、入居者様の状態を確認し状況把握に努めております。また、変化があればすぐに報告するようにし全員で動けるように心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等で入居者様の現状の問題等を話し合いをしたり、それをホーム全員で統一できるようユニット関係なく行っている。	A3用紙の「気づきノート」がスタッフルームに置いてあり、全員がケアに関して気が付いたことをそれに書き込むようにしている。書き込まれた内容についてはユニット会議で話し合わせ、モニタリング、ケアプランの作成にもつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記録し、現在、介護記録の電子化を始め職員間で情報共有もわかるようになってきました。常にケアの見直しや「気づき」共有を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット関係なく連携を行いながら可能な限り柔軟な対応をできるよう話し合っています。また部会などを通してどんなサービスがあるかなど話し合う機会も多くなってきています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスで大きな行事参加などできなかったが、散歩や外でレクリエーションを行っている時に挨拶や会話を大切にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時以外でも急変時等相談事があると24時間往診医との連絡が出来る様になっております。また、SNSを利用し情報共有を行っており、常に関係性を築けるよう努めています。	以前からの「かかりつけ医」への通院は家族の介助が必要で負担が大きいため、ホームの提携医への切り替えを勧めている。月2回の提携医の往診、訪問看護師の週1回の訪問によって全員の健康面は管理されている。メディカルケアネットサービスを使い、症状の写真を送り診てもらうこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護日以外でも24時間直通電話を使用し訪問看護師と相談を行い、個々にあった対応をできる様に努めております。また、訪問看護師も往診医と連絡を取れるよう連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と話し合い状態の報告や確認し早期対応また、早期退院を出来る様に努めております。また、カンファレンスも行っていたり連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、医療、ご家族と話し合い、本人様の様子、気持ちなど統一して行えるようホーム側から動くようにしています。常に話し合い、連携を図り、どんなことも対応できるように協力しています。また、研修等も行い、本人、ご家族様、医療側からの思いも共有できるように橋渡しとなって行っています。	今年度は看取り実績として、3件あった。利用者が食事を食べなくなる状況に至ると、家族に状況報告をし意向を伺うとともに、訪問看護師に連絡し医師の指示を仰ぐことになる。スタッフの意向確認と、医師と家族の面談を経てホーム内での介護がスタートする。それと共に看取り研修を行い支援体制が敷かれていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置を行い対応に備えている。また、今後救急救命講習等開催し実践力を身に付けて頂く様に考えております。またその場面になった時に落ち着いて行動できるように考えながら行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回日中・夜間想定で、実施しております。またその場面になった時に落ち着いて行動できるように考えながら行うようにしている。	夜間を想定した6月の消防訓練は全員参加し、消火作業の模擬訓練も行った。12月には昼間を想定した訓練を予定している。昨年の台風災害の教訓から、緊急時にはスタッフの仕事も多くなるため家族の方に、利用者とはホームにいてもらえるようお願いをした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自立されている方も多い事から個人の時間を大切に考えておりますが、たまに職員優先な対応があります。また、声掛けに関しては、入居者様に合わせ対応をしておりますが、スタッフ目線で見えてしまうことも見られています。	各人の行動や嗜好などの特徴を把握することで、本人から言われる前にこちらからの声掛けに努めている。また、食事の準備などで忙しいからと言って、トイレに行きたい人に「ちょっと待って」といったスタッフ優先の声掛けを慎むように指導しており、利用者目線の対応で尊厳を守るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、希望や自己決定ができる環境になっていない時があります。言いやすい雰囲気を作ることができるようにしていきたい。その為「気づき」をまず大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ優先せず、都度入居者様のペースで過ごせるよう一人ひとりの理解をできるようにしていきたい。入居者様が話しやすい環境、入居者様が決められるように気を付けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用したり、近隣の床屋に行かれたりする方もいらっしゃいます。女性入居者様が多い事もあり、外出する際は女性職員が化粧を手伝ったり男性職員は男性の入居者様にひげや髪を整えるなど行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳などを入居者様と共に行っております。また、現在新型コロナウイルスでレクリエーションができない為食事レクなども多く行い、毎月に行うようにしています。	食事の準備や片づけなどは自ら手伝いを買って出る方が多くおり、そのことで生活に張りが出ているようだ。食事に対する利用者からの要望も多く、月1回の食事レクに反映して楽しんでいる。先日は、利用者が作ったカレーを皆で食べている光景をフランスにいる利用者の娘さんにZoomで見せたところ、大いに感動したようだった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理指示書をもとにバランスの摂れた食事を提供しております。また、介護記録の電子化で分かりやすくなっている為話し合いや水分量・食事量等の把握を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施と週一回訪問歯科があり、先生が来て下さる為、口腔内の様子や入居者様の訴えに応じ、訪問歯科コーディネーターと相談し対応をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを介護記録の電子化によって把握できやすく本人様のプライバシーや尊厳を大切にしています。職員二人で介助も対応しており、できるだけ入居者様にあった、希望するよう支援しています。	9月から紙ベースの介護記録管理がIT化により電子化された。その結果、より詳細なデータが得られケア支援体制も充実した。リハパンから布パンに代わった利用者もあり、新システムによるトイレ誘導の効果が上がっている。おむつの使用者がトイレでの排泄により、おむつ替えに時間を割くことも無くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量・活動量を全員で把握するように心がけ支援しています。それでも難しい場合は、往診医、訪問看護とも相談し連携を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに聞き、タイミングを見て合わせて対応している。時間や洗体のやり方など合わせて支援しています。しかし、拒否される方など、怒ってしまうとスタッフの方が委縮してしまい工夫できていないこともあります。	「今日は寒いからお風呂に入らない」と嫌がる人がいた場合には、体の状況が確認できることから「今日は取り敢えず頭だけでも洗いましょう」と部分洗いを薦めることもある。入浴を楽しんでもらえるように、歌の好きな人には風呂場にCDで音楽を流したりもしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、本人様の状態をみて、声掛けや居室内の環境整備に取り組んでいます。また、導線の確保も気を付け事故防止の観点からも気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・訪問看護師・薬剤師など相談、連携しスタッフが薬について理解できるようにしています。できるだけ精神薬など外していき、介護側が工夫をして薬の理解を行うようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった役割を持って頂くようスタッフ全員で動いています。また、意欲が出るように声掛けや、レクリエーションして楽しく生活できるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスで面会などできなかったがご家族様や、ボランティア様にもZOOMや動画で協力して頂き、一人ひとりに行きたい場所、食べたいものなど思いを叶えられるようにとにかく楽しくをもっとに行っています。	コロナ禍からの感染防止対策として外出は制限し、近所の散歩程度にとどめている。2年前からフロア内で「歩け歩け運動」をトロロの「さんぽ」の歌を流して毎日歩いている。これが、外出の減少によるストレス発散にも一役買っているようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを考慮し、ご家族に説明し、ご本人・ご家族の承諾の上で、金銭を持たれている方もいらっしゃいます。また、必要に応じて本人様の必要なものや食事、飲み物を購入されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際に本人自ら電話できる環境です。ご家族様にも伝え、ご家族様からも電話しやすい環境を作っています。現在、ZOOM面会を進めており、たくさんの方が行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が安心、安全に暮らしていけるよう配慮を心がけております。暖かい雰囲気を作る為、入居者様にも手伝っていただき一緒に掲示物など作っています。	利用者の転倒が一番怖い為、近くにつかめる物があるレイアウトにしている。また、室内を明るくするためにLED電灯に切り替えた。月ごとのカレンダーやクリスマス用の飾りをスタッフと一緒に作業では、参加した人たちの顔が生き生きとしたものになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様に合わせた座席配置をしております。気の合った入居者様同士や、新規入居者様でもすぐになじめるようにその都度環境整備を行っています。また、新しい入居者様が入られた際は、歓迎会を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面等を考慮しつつ、目宅で使用していたご本人の馴染みのある家具等を入居時に置いて頂く様にご家族様に説明し、設置して頂いております。スタッフも周知し、入居者様とのコミュニケーションの話題の一つとして行っています。	居室内への馴染みの物の持ち込みを受け入れている。アルバム写真を見てスタッフが話かけると自慢気に昔話を語りだす。その場を一緒になって人生の1コマに浸ることで気持ちが和むことが多い。コミュニケーションと同時に利用者の見守りにも注意を払っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンやフロア内は、基本自由に行ききができる、刃物などは、スタッフが管理し安全性を高めています。各居室には入居者様の写真を貼ったり、本人様が過ごしやすくわかりやすいようにラベルなど貼り支援しています。できることを支援することも心がけています。		